



12/23適時開示 補足説明資料

※資料中、社名は以下の略称にて記載しております。

SH社：サッポロホールディングス株式会社 SB社：サッポロビール株式会社

SLN社：株式会社サッポロライオン PS社：ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社

2020年12月23日

URL <https://www.sapporoholdings.jp>

1. 連結業績予想の修正
2. 固定資産の減損損失（連結）
3. 子会社株式評価損（個別）
4. 早期退職優遇制度の実施結果

1. 連結業績予想の修正

連結業績予想の修正：売上収益

● コロナ感染再拡大の影響により、外食事業、及び食品飲料事業の売上収益を下方修正

(億円)	2020 前回発表予想	2020 今回発表予想	増減額	(参考) 2019実績	増減要因
売上収益	4,445	4,360	▲ 85	4,919	
酒類事業	2,869	2,854	▲ 15	3,302	
日本・アジア	2,294	2,294	0	2,547	
北米	449	449	0	483	
外食	127	112	▲ 15	273	コロナ感染再拡大による自粛ムードの高まり、消費マインドの冷え込みによる減収
食品飲料事業	1,340	1,270	▲ 70	1,369	コロナ感染再拡大による自販機の飲料売上減、及び外食（カフェ）の売上減
不動産事業	234	234	0	247	
その他	2	2	0	2	

連結業績予想の修正：事業利益

● 減収影響を受けたものの、コストコントロール効果により事業利益は上方修正

(億円)	2020 前回発表予想	2020 今回発表予想	増減額	(参考) 2019実績	増減要因
事業利益	10	25	+15	117	
酒類事業	▲ 4	13	+17	85	
日本・アジア	45	60	+15	80	販促費をはじめとしたコストコントロール
北米	0	5	+5	2	販促費をはじめとしたコストコントロール
外食	▲ 49	▲ 52	▲ 3	4	減収影響
食品飲料事業	▲ 27	▲ 29	▲ 2	▲ 5	外食（カフェ）減収に伴う減益
不動産事業	105	105	0	107	
その他・全社	▲ 64	▲ 64	0	▲ 71	

連結業績予想の修正：親会社の所有者に帰属する当期利益

● PS社にて減損損失の計上を見込んでおり（次ページ参照）、営業利益以下は大幅な下方修正

(億円)	2020 前回発表予想	2020 今回発表予想	増減額	(参考) 2019実績	増減要因
事業利益	10	25	+15	117	
その他の営業収入	30	30	0	35	
その他の営業費用	119	237	▲ 118	30	PS社：固定資産減損損失▲110
営業利益	▲ 79	▲ 182	▲ 103	122	
税引前利益	▲ 94	▲ 214	▲ 120	116	
法人税等	▲ 29	▲ 50	▲ 21	43	
当期利益	▲ 65	▲ 164	▲ 99	38	2019年：非継続事業からの当期損失▲35含む
親会社の所有者に 帰属する当期利益	▲ 65	▲ 158	▲ 93	44	

2. 固定資産の減損損失（連結）

PS社保有の固定資産減損

2020年12月期第4四半期連結会計期間において、
減損損失として**約110億円（概算）**を**その他の営業費用**に計上見込み（連結）
※連結営業利益に影響するものの、キャッシュフローへの影響はない

【減損の背景】 2期連続での赤字計上、及びコロナ感染再拡大

2019年は冷夏・暖冬など天候に恵まれず、2020年はコロナ禍と、
一時的な要因の影響が大きいものの、2期連続での赤字が確実となった
下期での感染再拡大の影響も加味した結果、当期での減損処理が妥当と判断

【今後の成長戦略】 飲料事業の収益性改善、及び食分野での成長

強みであるレモン関連商品※、成長事業であるスープ・プランツミルクへの注力、
早期退職優遇制度の実施や、自販機事業の構造改革をはじめとした収益性改善など、
今後の成長に向けた戦略の検討、及び具体的なアクションにはすでに着手

来期の食品飲料事業の事業利益黒字化、及び継続的な成長を目指す

※「ポッカレモン100」「キレートレモン」は過去最高出荷の見込み https://www.pokkasapporo-fb.jp/company/news/release/201215_01.html

3. 子会社株式評価損（個別）

PS社保有の固定資産減損

2020年12月期第4四半期連結会計期間において、
減損損失として**約110億円（概算）**を**その他の営業費用**に計上見込み（連結）
※連結営業利益に影響するものの、キャッシュフローへの影響はない

上記によりPS社の純資産が大きく毀損
純資産残高がSH社で保有する株式簿価の50%を下回るため

SH社保有のPS社株式評価損

2020年12月期第4四半期連結会計期間において、
株式評価損として**約215億円（概算）**を**特別損失**に計上見込み（SH社個別財務諸表）
※連結決算への影響はない

4. 早期退職優遇制度の実施結果

早期退職優遇制度の実施結果



	SB社	PS社	SLN社
募集期間	一次：2020/5/1～7/10 二次：2020/10/1～12/10	2020/11/1～12/10	2020/11/16～12/18
退職日	一次：2020/11/20 二次：2021/5/20	2021/2/28	2021/1/31
人数	一次：51名 二次：59名	119名	126名
一時費用 (概算)	3社合計：約50億円 (概算)		
事業利益影響額 (通年※)	3社合計：約25～30億円 (概算)		

※退職時期を考慮しない、通年での影響額

【補足】 Q&A



Q	A
①PS社の総資産額と固定資産額はいくらですか？	2019年末時点の総資産は668億円、固定資産は330億円となります。
②減損の対象となった固定資産は具体的に何ですか？	有形固定資産と無形固定資産です。PS社は会社全体を一つのグループとしており、資産全体の帳簿価額を切り下げることになります。
③食品飲料事業の収益改善に向けた具体的な取り組み内容、及び定量的な効果について何かガイダンスはありますか？	来期の取り組みは、2月の決算説明会でご説明させていただきます。
④大きく資本が毀損しますが、財務方針に変更はありますか？	変更ありません。 引き続き現状の格付水準が維持可能なレベルの確保を目指します。
⑤来期以降、再度減損が発生する可能性はありますか？	現時点で想定しているものではありません。
⑥食品飲料事業の売上収益計画の修正額が大きいです、主な要因は何でしょうか？	コロナの感染再拡大により、自販機の飲料売上、及び外食（カフェ）売上が減収となったことが主な要因です。
⑦早期退職実施後はコストが減ると思いますが、継続性はありますか？退職者の補充は無しという事ですか？	継続可能と考えています。製造販売共に業務効率化を進めており、スリム化した人員体制での事業運営が可能であると考えています。
⑧減損に伴い、翌期以降の減価償却費の改善効果はどの程度発生しますか？	減損額が確定前なので変更の可能性はありますが、現時点では約10億円/年と試算しています。
⑨SB社から特別配当が実施されますが、SH社の株主還元方針、及び配当方針に変更はありますか？	特に変更はなく、引き続き安定配当を基本とします。 今期の配当予想にも変更ありません。

潤いを創造し 豊かさに貢献する



本資料は、投資判断の参考となる情報提供のために作成されたものであり、投資勧誘又はそれに類する行為を目的としたものではありません。
また、本資料に記載された業績予測ならびに将来予測は、資料作成時点での弊社の判断であり、潜在的なリスクや不確実な要素が含まれています。
従って、将来実際に公表される業績等は、本資料に記載されている内容とは大きく異なる結果となる可能性があります。
弊社は、本資料の情報を使用されたことにより生じるいかなる損害についても責任を負うものではありませんので、ご了承ください。